

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28247

今城先生のともだちに教えたい経済教室-ゲームで学ぶ超「入門」編-



開催日：平成28年8月25日（木）
実施機関：阪南大学50周年記念館
（実施場所）（スチューデント・コモンズ）
実施代表者：今城 徹（経済学部・准教授）
受講生：中学生9名
関連URL：
<http://www.hannan-u.ac.jp/lifelong/mrrf43000001qsn.html>

【実施内容】

●本プログラムのねらいと工夫

実施代表者本プログラムの目的は、受講者に株式市場における企業家と投資家の行動原理を、株式市場に見立てた教室での講義と実習を通じて理解してもらうことであった。まず最初に、講義では、受講者が次に行う実習にスムーズに移行できるように工夫した。具体的には、企業家は、より高い報酬を得るために常に直近の自身の業績を超えようと努力する存在であること、投資家は、やはりより高い報酬を得るために、投資先の過去の実績をもとに自身の投資先を選ぶ存在であること、勝ち残り続ける企業家と投資家によってビジネスの世界が構成されていることを伝えるようにした。次に、ゲームを用いて、受講生が「企業家」と「投資家」の両方を体験する実習を行った。実習の内容は、企業家役が練習として投資家役の前で簡単なゲームを行い、その成績を双方が把握した上で、企業家が本番で自身の練習での成績を達成出来るか否かを投資家が予測するものとした。なお、練習における企業家役の投資家役に対する成績の提示は、投資家役に企業家役の過去の成績を提示し、本番での予測の材料を提供するためのものである。実習では、3種類のゲームを準備して受講者を飽きさせないように努めた。また、受講者全員が企業家役と投資家役を体験出来るようにするとともに、事前に仮想通貨を配布して、自身の持ち分が勝敗に応じて増減するようにした。これは、通貨の増加が自身に対する高い報酬、通貨の減少が自身の資産の減少・破産であること、最終的に持ち分がプラスであればビジネスの世界で生き残れることを体感してもらうための工夫である。最後に、講義と実習の意味をふりかえり、中学生にとって馴染みの薄い「経済」や「ビジネス」の世界についての理解が定着するように工夫した。最初は難解であった「金融経済」も段階的にその知識を深め、面白さを体感してもらえたのではないかと考える。



今城先生の講義



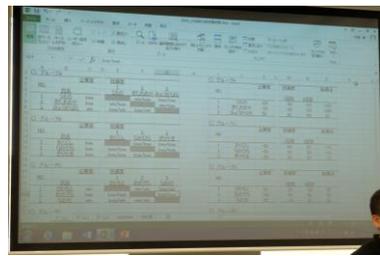
実習①の様子



実習②の様子



実習③の様子



勝敗表



修了式の一コマ

●当日のスケジュール

9:30-10:00 受付

10:00-10:15 開講式（科研費の説明・諸注意）

10:15-10:50 講義「ようこそ！「企業家」と「投資家」の世界へ！」

10:50-12:10 「前進あるのみ派」と「じっくり見る派」の勝負（実習①）

12:10-13:10 昼食・休憩

13:10-15:10 「前進あるのみ派」と「じっくり見る派」の勝負（実習②）

15:10-15:25 クッキータイム

15:25-16:30 「前進あるのみ派」と「じっくり見る派」の勝負（実習③）

16:30-17:00 成績発表とふりかえり、アンケート記入・修了式

17:00 解散

●事務局との協力体制

実施代表者は実施1年前から事務局担当者と連絡を密にして、基本プログラムの設定と参加者の理解を深めるためにはどのようなことに留意し、どのような工夫が必要かを議論しながら相互理解と信頼関係を構築していった。本プログラム実施にあたって委託費の管理については、実施担当部局である研究助成課において専用の帳簿を備えて、支出入の金額・内容を記帳しており、その執行に関しても財務課が管理をおこない把握することで、プログラムをおこなう上で十分な協力体制が機能していたと思われる。

●広報活動

実施担当者と実施担当部局（研究助成課）が広報担当部局と協力して、大学の広報誌、ホームページに募集案内を掲載した。また、近隣の中学校にポスター及びリーフレットを配布するなど積極的な広報活動を実施した。また、市役所の広報誌、駅貼りポスター広告で対象者（中学生）に限らず広く一般に科研費の研究成果がいかにか本プログラムに活かされているかを周知させた。

●安全配慮

本年は、異常気象といえる猛暑日が続いていることから特に熱中症による体調不良やノロウイルス等中毒対策に十分配慮し、飲料水の配布、空調設備のある部屋での昼食をおこなった。プログラムではすべての行動について教職員やアシスタント学生が常に付き添い、プログラム時間内（開始から解散まで）には傷害保険に加入することで、十分な安全体制を確立した。

●今後の発展性、課題

本プログラムは実施代表者の研究課題である、戦前日本の株式市場の果たした役割に関する研究成果をもとに、受講者に株式市場の参加者である企業家と投資家の行動原理を理解してもらうために企画した。当日の欠席者が4名と多く受講生は10名に満たなかったが、アンケート結果から本講義の満足度が高いことから伺えるように、結果的に一人一人のフォローを厚くすることが出来た。課題としては、やはり「経済」というテーマが中学生にとっては、難解であること。難解であるテーマをいかに対象者目線に落とし込んで広報するか、今後の課題としたい。

【実施分担者】	なし
【実施協力者】	_____ 7名
【事務担当者】	戀川 照義 研究所成課・係長